

『菅家文草』では、「98 有所思」に「不知我者謂我癡、何人口上將鎖骨」の句を見ることが出来る。

○一 ……ここでは『漢辞海』に説明するように「始終。ずっと。(行為や状況が途切れたり変わったりしない意)。いつに。専念に。もっぱら」の意で解釈すべき語。

○可憐…あわれむべし。かわいそう、あわれに思う。気の毒に思う。いつくしむ。

『漢語大詞典』では、「值得憐憫」と説明し、『莊子』の「庚桑楚」の「汝欲返性情、而無由入、可憐哉」の用例、および白居易の「壳炭翁」の「可憐身上衣正單、心憂炭賤願天寒」の句を引く。↓補説②



補説①

○195句～196句「縱使魂思峴、其如骨葬燕」の二句に込められた「羊祜の故事」について

『晋書』卷三十四「羊祜傳」および『蒙求』「54羊祜識環」につぎのような話を載せる。

▼「54羊祜識環」より

「晋羊祜字叔子、泰山南城人、世吏二千石、至祜九世、並以清德聞。(中略) 祜博学能屬文、魏高貴鄉公時、公車徵、拜中書侍郎、武帝有滅吳之志、以祜都督荊州諸軍事、出鎮南夏。累進征南大將軍南域侯。卒贈大傅。初有善相墓者、言祜祖墓所有帝王氣。若鑿之則無後、後遂鑿之。相者見曰、猶出折臂三公。祜竟墮馬折臂、仕至公、而無子。祜樂山水、每風景必造峴山、置酒言詠、終日不倦。襄陽百姓於祜平生遊憩之所建碑立廟、歲時享祀。望其碑者、莫不流涕。杜預因名爲墮淚碑。荊州人爲祜諱名云。」